杉並区ゆうゆう館協働事業提案募集　企画提案書【概要版】

（１）応募者の名称及び代表者名

特定非営利活動法人 新しいホームをつくる会
代表者名　松浦一郎

（２）業務に対する考え方

当団体は、ゆうゆう館を「高齢者が住み慣れた土地で、健康で生きがいを持って暮らし続けるための地域の交流拠点」であると捉えています。高齢化の進展に伴い、介護予防や健康づくりに加え、孤立防止・生涯学習・社会参加・多世代交流など、地域で果たす役割はますます重要になっています。

そのため利用者一人一人の主体的な活動を支援するとともに、地域団体・町会・自治会・学校・ボランティア等との連携を積極的に進めます。また、利用者ニーズを継続的に把握し、PDCA サイクルによる事業改善を行うことで、利用者満足度の向上と利用拡大につなげ地域に信頼される施設運営を目指します。

配置予定の責任者はゆうゆう館運営及び地域福祉活動に関する知識と経験を有し、利用者対応・事業企画・スタッフマネジメント・地域団体との連携調整など、施設運営全般を統括できる能力を備えています。責任者を中心に受付担当職員が協働事業の内容を理解・熟知し、日常の受付業務と協働事業を一体的に運営します。職員間の日常的な情報共有と毎月のスタッフミーティング、団体本部による継続的な確認・助言と運営支援により、安定した施設運営を実現します。

（３）協働事業に対する考え方（取組姿勢）・提案内容の全体像

当団体は協働事業を高齢者の生きがいづくり、健康づくり、社会参加及び地域とのつながりを創出する重要な取組と考えています。高齢者福祉、生涯学習、健康づくり、文化活動及び地域交流事業の企画・運営を通じて培った経験を生かし、多様な主体との協働による事業を展開します。

また、利用者の声や地域ニーズを継続的に把握し、地域団体・町会・自治会・学校・ボランティア等との連携を強化しながら地元在住の専門家にも講師を依頼し、地域資源を活用した特色ある協働事業を実施します。介護予防やフレイル予防は身体機能の維持だけではなく、社会参加、生きがいづくり及び地域とのつながりを通じて実現されるものと捉え、利用者が楽しみながら継続して参加できる事業を重視します。

具体的には、「いきがい学び」では既存の英会話やハーモニーくらぶを、生涯学習と認知機能の維持・向上を目的とした事業へ発展させるとともに、音楽・文化・デジタル活用など幅広い学習機会を提供します。「ふれあい交流」では、コミュニティさろんとして発表会・交流会・介護予防講座・笑いによる健康講座を開催し、利用者同士だけでなく地域住民との交流を促進します。「健康づくり」では、e スポーツ・ユニバーサルスポーツ・健康体操・ピラティス・フラダンスなどを実施し、身体機能、認知機能及び社会性の維持向上を図ります。さらに、近隣の小中学校、地域団体、子育て世代などと連携し、囲碁や特別講座、映画や料理などによる交流イベントへの共同参加を通じて、世代間交流を促進します。

（４）企画提案書に記載する以下の項目

・「新しいホームをつくる会」の活動・組織などについて

当団体は高齢者福祉を中心に、生涯学習、健康づくり、文化活動及び地域交流事業を行っています。高齢者が主体的に参加する協働事業を通じて、介護予防、認知機能の維持向上、社会参加の促進に取り組むとともに、認知症の方のためのグループホームを運営し、地域に根差した運営を実践しています。会計面では、法令及び会計基準を順守し、適正かつ透明性の高い会計処理を行っています。

人材面では、安定した施設運営には人材の確保・育成・定着が不可欠であると考え、現在従事する職員については利用者との信頼関係を尊重し、継続雇用を基本としています。新たな人材については、高齢者福祉に理解があり地域活動に意欲を持つ人材を公募や地域ネットワークを活用して確保します。採用後は計画的に研修を実施するとともに、OJT により実践的な教育を行います。労働関係法令を遵守し、適正な勤務時間管理、休暇取得、健康管理に配慮して、安心して働き続けられる職場づくりを進めます。

また、多様な人材が互いに尊重され能力を発揮できる組織づくりを進めており、採用や配置について性別・年齢・障がいの有無などによる差別を行わず、公平・公正な人事を基本としています。さらに、省エネルギー、節水、紙使用量の削減、ごみ分別とリサイクルなど、環境負荷の少ない施設運営に取り組みます。情報公開と個人情報保護については、個人情報保護法及び杉並区の関係規定を遵守し、書類及び電子データの施錠管理やアクセス権限設定、定期研修等により情報漏えい防止を徹底します。

・ゆうゆう館業務について

受付は、施設全体の印象を左右する重要な業務です。笑顔での挨拶、丁寧な言葉遣い、利用者一人一人の状況に応じたきめ細かな対応を基本とし、体調変化や不安にも気づき、必要に応じて家族、関係機関及び杉並区に適切な情報共有を行います。個人情報を扱うため、守秘義務を徹底し、書類や電子データを適正に管理します。利用者アンケートや苦情・要望を業務改善に反映し、定期研修を通じて継続的なサービス向上に取り組みます。

利用者の安全確保は施設運営の最優先事項であり、事故の未然防止を基本とします。開館・閉館時には施設内外、設備の異常、危険箇所及び防火設備を確認し、日常的に床面・通路・階段・設備を点検します。危険箇所は速やかに改善し、ヒヤリハット事例を職員間で共有して再発防止策を講じます。夏季は館内の温湿度管理、適切な空調運転、水分補給の呼びかけ及び休憩スペースの確保を行い、気象情報や熱中症警戒アラートに応じて事業内容や活動時間を柔軟に見直します。感染症対策は杉並区の方針に基づき、換気、手指衛生及び施設内の衛生管理を徹底します。災害や急病人の発生時は緊急連絡体制に基づき迅速に対応し、AED 使用方法や救急救援に関する講習を受講して、適切に対応できる体制を維持します。

利用拡大に向けては、これまで利用経験の少ない方でも参加しやすい事業を企画し、区広報、SNS、チラシ、町内回覧、地域施設への配架など多様な媒体を活用します。また、初めて参加する方のための体験会や見学会を開催し、参加しやすい雰囲気づくりに努めます。夜間は現役世代や地域ボランティアも参加しやすい講座や交流事業を実施し、施設の有効活用を図ります。

・受託希望施設について

受託希望施設は、ゆうゆう永福館です。地域住民の高齢化とコミュニティの希薄化が進む中、高齢者の健康づくり、生きがいづくり、介護予防、社会参加及び多世代交流を実践する地域の拠点として、ゆうゆう永福館が大きな役割を担ってきたと考えています。老人会には今なお動員力があり、多くの方がゆうゆう永福館を利用している一方、老人会に加入していない方やその下の世代は、ゆうゆう館利用経験の少ない層が多いと考えています。

このため、ゆうゆう永福館の基本コンセプトを「学ぶ、つながる、元気になる地域交流拠点」と位置づけ、18 年間の館運営で築いたネットワークを生かし、健康づくり、介護予防、生涯学習、文化活動及び地域交流を一体的に推進します。さらに、「庭のあるゆうゆう館」という立地の利点を生かし、季節行事や複数団体の交流、近隣の小学校や児童館を対象とした親子参加イベントなど、これまでゆうゆう館を利用していなかった方にも参加しやすい魅力ある事業を展開します。

また、当団体が受託している「ゆうゆう堀ノ内松ノ木館」との間で、情報共有と人事交流を行い協働事業の相互協力を図ります。

（5）提案によって期待される効果

利用者が主体的に学び、交流し、楽しみながら継続して健康づくりに取り組むことで、身体機能、認知機能及び社会性の維持・向上を図り、介護予防・フレイル予防及び健康寿命の延伸に寄与します。

また、孤立防止、生きがいづくり、社会参加及び地域とのつながりを促進し、高齢者が住み慣れた地域で健康に暮らし続けられる環境づくりに貢献します。地域団体、学校、子育て世代、ボランティア等との連携と世代間交流を通じ、高齢者が知識や経験を地域に伝える機会を創出し、地域全体のつながりを深めます。

さらに多様な広報、体験会・見学会、夜間事業により、新規利用者の獲得と施設の有効活用を図ります。利用者一人一人が「また来たい」「仲間ができた」「地域で役割を持てた」と実感できる事業展開により、ゆうゆう永福館を地域共生社会の実施拠点としてさらに発展させます。

（様式７－１）

杉並区ゆうゆう館協働事業提案募集　企画提案書【概要版】

○ 業務に対する考え方

ゆうゆう館を、高齢者の「憩い・健康づくり・いきがい学び・ふれあい交流」を支える生涯現役の地域拠点であり、困り事を早期に受け止め、地域資源へつなぐ入口と捉える。受付・清掃・安全管理を施設運営の基盤として、親切で正確な案内、清潔で安心できる環境、利用者の尊厳と個人情報の保護を徹底する。開館中は必要な人員を配置し、日々の引継ぎ、事故・ヒヤリハットの共有、区への迅速な報告を行う。

○ 協働事業に対する考え方（取組姿勢）、提案内容の全体像

協働事業を単なる講座提供ではなく、参加者同士の関係を育て、住民・地域団体・行政が地域課題に取り組む仕組みと位置付ける。既存の人気事業を安定的に継続しながら、「心・体・頭の健康」を共通軸に、地域ケアダイアローグ、フレイル予防、暮らしの学び、夜間交流、地域人材育成等を加える。学ぶ人が次には支える人となる循環をつくり、孤立予防、介護予防、社会参加を一体的に進める。

○ 団体の活動・組織等について

当法人は2004年から、ひきこもり・不登校等の本人・家族への相談支援、居場所づくり、講座・啓発、公共施設運営に取り組み、「孤立させない」「お互い様」を大切にしてきた。ゆうゆう下井草館では令和7年度に協働事業226回、延べ1,593人の参加実績がある。就業規則、育児・介護休業規程、個人情報保護、ハラスメント防止の規程を整備し、研修と相談体制を通じて働きやすい環境を確保する。

○ ゆうゆう館業務について

配置予定責任者は代表理事の佐々木民枝とし、15年の経験を生かして区・地域機関・職員を調整する。受付案内、清掃、安全管理、協働事業を別々に扱わず、日常の会話からニーズを把握し、企画と運営改善へ反映する。職員会議、日報、引継簿、緊急連絡網、研修、複数者による確認を定着させ、責任者一人に依存しない運営を行う。

○ 受託希望施設について

ゆうゆう下井草館を第一に希望する。令和7年度利用者は8,089人で、女性6,173人に対し男性1,916人、夜間稼働率は1%である。保育園・子ども子育てプラザとの併設、駅や商店街に近い立地を生かし、多世代交流、働く世代・男性・初参加者への広報、夜間の月替わり事業を進める。既存利用者の安心を守りつつ、新しい人が入りやすい館へ段階的に発展させる。

○ 提案により期待される効果

①孤立の早期発見と相談先への接続、②フレイル・認知機能低下の予防、③男性・夜間・現役世代等の新規利用、④参加者の役割づくりと地域人材育成、⑤ケア24、町会、社協、学校、商店会等との連携強化、⑥対話を基盤とした地域共生の推進を目指す。参加者数・新規登録・男女別・年代別・夜間利用・継続率・連携件数・満足度を確認し、年度途中にも改善する。

（様式７－１）

「企画提案書（概要版）」

（１）件名

杉並区ゆうゆう館協働事業提案募集　企画提案書【概要版】

（２）業務に対する考え方

ゆうゆう館は、高齢者の皆様が趣味・嗜好を活かしながら地域の仲間との交流を深め、生きがいを持ち心豊かに日々の生活をお過ごしいただく場です。ご利用者の自主性を尊重し、共同性を育みながら気楽にご利用いただける場であり、基礎体力向上の支援・認知症予防・フレイル予防を行う場でもあります。

以上を踏まえ、ご利用者に安全・安心・快適にご利用いただけるよう環境及び衛生面の整備を図るとともに、敬意をもって個人を尊重し、かつ温かい接遇に努めます。地域で引きこもりがちな方々を「誰一人置き去りにしない」ための場となるよう、多くの方が気軽に利用できる様々なプログラムを提供します。

さらに、施設運営者として情報力・共感力を培い、館として地域ネットワークの構築に注力することにより、地域の課題に積極的に取り組み必要とされる施設運営を目指し業務を遂行します。

（３）協働事業に対する考え方（取組姿勢）、提案内容の全体像

施設目的である「ふれあい交流」「生きがい学び」「健康づくり」の実現に向けての活動として、施設運営者が企画・運営する重要な事業と考えます。これらの目的がバランスよく配置されるプログラム・メニューを提供し、年齢・性別・障がいの有無に関わりなく誰もが参加しやすい協働事業を実施します。

また、ゆうゆう館を『いきいき元気に生涯現役』・『地域コミュニティづくり』の拠点とするため、参加者同士の交流を心掛け、近隣への広報や諸団体との連携を図り、協働事業参加への協力関係を構築し、家族で参加できる世代を超えた協働事業も企画していきます。

（４）企画提案書に記載する以下の項目

・団体の活動・組織等について

「さらプロジェクト」の事業活動は、施設運営事業（杉並区立ゆうゆう館の運営事業及び協働事業、世代を超えて交流する杉並区立コミュニティふらっとの運営事業及び自主事業）、就労支援事業（障がい者・若年層の就労を支援する福祉事業）です。事業活動を推進することにより、教育普及支援を行う地域教育事業に取り組んでいます。

地域で暮らす社会的弱者が、情報力、コミュニケーション力、共感力、主体力を身につけるために支援する活動により、充実した日々を送り自立できる地域社会の実現を目指し、事業活動を続けています。

・ゆうゆう館業務について

ゆうゆう館は、高齢者の福祉増進のために設置された施設で、地域に根ざし近隣の高齢者の方が安心して気軽に利用できるコミュニティづくりの重要な場と考えています。

受付案内業務においては、運営の手引き、ゆうゆう館のルールを厳守していきます。

ご利用者への対応として、気持ち良い挨拶を励行し、明るく親しみやすいコミュニケーションを心がけます。また、ご利用者の来館時の健康状況を目視確認し、体調管理にも配慮します。

個人情報に関しては、個人情報保護法を厳守し、Ｐマーク取得事業者として定期的に

職員への研修及びオンラインテストを継続実施し、資質向上を図り安全に管理していきます。

定例実施のスタッフミーティング時には、接遇、防犯、防災等の研修も実施しており、このような配慮をすることによってチームとしての一丸性が生まれ、ひいてはご利用者への質の高いサービスを提供することになると確信しています。

・受託希望施設について

「ゆうゆう和泉館」の受託を希望します。

周辺の地域性、施設規模が、かつて受託運営した「ゆうゆう方南館」に類似しています。

ゆうゆう和泉館は、交通面でのアクセスに恵まれ、閑静な住宅地に囲まれ、公園や学校も近く、生活しやすい環境にあります。館内は比較的こじんまりしており、ご利用者のコミュニケーションが取りやすいと認識しています。その利点を充分に活かして、ご利用者の家庭生活の延長上にある地域密着型の施設として、高齢者はもとより、次世代の方たちも気軽に来館、参加できる施設運営・協働事業運営を行い、多世代が共通の興味を持って交流できる施設づくりを目指します。

（５）提案によって期待される効果

現在受託運営している３施設についても、地域に根差した施設である特性を活かし、商店街や自治会、地域の諸団体（ケア２４・警察署・消防署・保健センター・NPO支援センター・ボランティアセンター・社会福祉協議会・近隣の小中学校）とのコミュニケーションや連携を図り、協力関係を構築してきました。今後もこの協力関係を活用し、連携を深め、地域人材の発掘・育成にも努めたいと考えています。

さらに、３施設のスケールメリットによるノウハウを活かすことにより、多様で幅広い人材確保と事業の企画・運営が可能になると考えます。

（様式７－１）

杉並区ゆうゆう館協働事業提案募集　企画提案書【概要版】

【業務に対する考え方】

当団体は、ゆうゆう館を、高齢者が健康づくりや学び、交流を楽しみながら、これまで培ってきた経験や得意なことを生かし、地域で役割を持てる拠点と捉えています。
高齢者を「支援を受ける側」だけでなく、地域をともにつくる担い手として捉え、人とのつながりや外出、交流の機会を通じて、孤立防止や介護予防、生きがいづくりにつなげます。
「利用する場所」から、「人とつながり、役割が生まれ、地域で活躍する場所」へ。利用者一人ひとりの声を大切にした運営を目指します。

【協働事業に対する考え方（取組姿勢）】

事業者だけで完結させるのではなく、利用者、地域住民、地域団体、介護事業者、病院、学校、ボランティア等とともにつくる事業として運営します。特に、利用者の「やってみたい」「誰かの役に立ちたい」という思いを拾い上げ、講座や交流活動、ボランティア、地域活動などの新たな役割につなげます。また、子どもや若い世代との交流など、多世代が関わる機会をつくり、高齢者が地域の中で持っている経験や知識を次世代へつなげていきます。

【提案の全体像】

① 健康づくり
運動・フレイル予防・食・こころの健康など、健康寿命を延ばすための機会を提供します。
② 学び・生きがいづくり
趣味や文化、デジタル活用など、知りたい・やってみたいという思いを学びにつなげます。
③ 交流・孤立防止
気軽に立ち寄れる場や交流の機会を増やし、人とのつながりをつくります。
④ 担い手づくり
利用者の経験や得意分野を生かし、講師、ボランティア、活動の企画・運営など、地域の担い手として活躍できる機会をつくります。
⑤ 多世代交流
子どもや若い世代、地域団体等との交流を進め、世代を超えたつながりを育てます。
⑥ 地域との連携
地域団体、民生児童委員、学校、行政、福祉関係機関等とのつながりを生かし、必要な支援や地域活動につなげます。

【団体の活動・組織等について】

ゆるゆるma～maは、子育て支援を出発点として活動を始め、現在では、子ども・子育て家庭、高齢者、地域住民を対象に、地域共生の実現を目指して活動を広げています。地域協力者が、それぞれの経験や得意分野を持ち寄り、事業ごとにゆるやかに参加することを大切にしています。
「できる人が、できる時に、できることを」という関わり方から、新たな協力者や担い手が生まれています。また、高齢者世代、子育て世代のスタッフが働き、若い世代が高齢世代を支え、高齢世代がこれまでの経験を生かして若い世代を支えるなど、世代を超えて互いに支え合う組織づくりを進めています。

【ゆうゆう館業務について】

ゆうゆう館を、高齢者の「健康・学び・交流・生きがい」を支えるだけでなく、地域の中で新しい役割を見つけることのできる場として運営します。利用者の声を日常的に聞き、利用者の興味や経験、得意なことを事業に生かします。講座やイベントへの参加にとどまらず、利用者自身が講師やボランティア、活動の担い手となれる機会をつくります。

また、予約して参加する事業だけでなく、ふらっと立ち寄れる機会や、参加へのハードルが低い交流の場も大切にします。利用者同士のつながりを育てるとともに、地域団体や学校、子どもたちなどとの多世代交流を進め、ゆうゆう館を地域に開かれた場所としていきます。
さらに、日々の会話や交流を通して利用者の変化や困りごとに気づき、必要に応じて地域の相談機関や支援につなぐなど、「気づく・つながる・支える」機能も大切にします。

【受託希望施設について】

「ゆうゆう和田館」の受託を希望します。ゆうゆう和田館周辺地域は、これまで培われてきた人と人とのつながりがあります。一方、マンションや商業施設の増加により新たな住民も増え、今後さらに多様な世代・背景を持つ地域となることが見込まれます。設立以来、和田地域を拠点に多くの地域の皆さん、関係機関との顔の見える関係を築いてきました。地域を知り、人を知っていることが私たちの強みです。「今ある和田の良さ」と「新しく生まれる人やつながり」をつなぎ、高齢者の生活の充実、余暇活動、健康づくりや介護予防、生きがい・交流を支えるとともに、多世代が自然につながる地域の拠点として、ゆうゆう和田館を育てていきたいと考えています。

【提案によって期待される効果】

本提案により、高齢者の外出・交流機会を増やし、健康づくり、介護予防、フレイル予防、孤立防止につなげます。これまでの高齢者向け事業の実績を踏まえ、年間450日以上の事業実施を一つの目安とし、延べ4,500名以上の参加機会の確保を目指します。

また、健康・音楽・料理・学びなど多様な講座を充実させるとともに、夜間等にも事業を実施し、これまで利用する機会の少なかった現役世代や若い世代の参加を促します。

さらに、利用者の経験や特技を講師、演奏、ボランティア等に生かし、年間10名程度の新たな地域の担い手を発掘・育成します。高齢者が「参加する側」から「地域を担う側」へと役割を広げることで、生きがいづくりと地域の支え合いにつなげます。

ゆうゆう館を通じて、高齢者一人ひとりが「自分も地域の役に立てる」と感じられる機会を増やし、人と人がつながり、支える人も支えられる人も固定されない、地域の支え合いの循環を育てていきます。ゆるゆるma～maがこれまで培ってきた「人と人をつなぐ力」と地域とのネットワークを生かし、地域、利用者と担い手がともにゆうゆう館を育てていく運営を目指します。

（様式７－１）

（１）件名

杉並区ゆうゆう館協働事業提案募集　企画提案書【概要版】

（２）業務に対する考え方

ゆうゆう館を、高齢者のいきがいづくり、健康づくり、社会参加を総合的に支える地域拠点として位置付けます。当センターは、同じ地域・同世代の利用者に寄り添える強みを生かし、丁寧な受付・案内、安全で安心な施設管理、地域特性を踏まえた事業運営を一体的に行います。利用者が気軽に集い、交流し、継続的に参加したくなる施設運営を通じて、地域に開かれた身近な居場所づくりを進め、高齢者の生きがいの向上と介護予防、地域コミュニティの活性化に寄与します。

（３）協働事業に対する考え方（取組姿勢）、提案内容の全体像

協働事業では、「いきがい学び」「ふれあい交流」「健康づくり」を柱として、文化・教養講座、映画上映会、コーラス、体操、ヨガ、太極拳等の多様なプログラムを実施します。会員が有する専門的な技能と、長年にわたり培ってきた地域ネットワークを生かし、高齢者が身近な場所で参加しやすく、継続しやすい事業を展開します。こうした取組は、施設利用者をはじめとする高齢者の心と体の健康づくりに資するだけでなく、孤独・孤立の防止につながる仲間づくりや社会参加の促進にも寄与し、ゆうゆう館を拠点とした地域全体の活力向上につながるものと考えます。

（４）企画提案書に記載する以下の項目

・団体の活動・組織等について

当センターは、高齢者への就業機会の提供を中心に、研修・講習、相談、社会奉仕活動等を通じて、高齢者の活躍と地域貢献を一体的に推進してきました。公益法人として、会計処理の適正な実施、個人情報を含む情報管理の徹底、環境への配慮、人材育成に継続的に取り組み、安定性と透明性の高い組織運営を行っています。これらの実績と運営基盤を生かし、区民から信頼されるゆうゆう館運営を着実かつ継続的に実施します。

・ゆうゆう館業務について

利用者一人ひとりに寄り添った丁寧な受付・案内を行うとともに、日常的な施設点検や安全管理、利用者の声を踏まえた改善に重点的に取り組みます。熱中症予防、転倒防止、避難訓練等の安全対策を計画的に実施し、職員および会員間で情報を共有することで、課題を早期に把握し、迅速に対応します。安全性、快適性、利便性の一層の向上を継続的に図り、誰もが安心して利用できる施設環境の整備に努めます。

・受託希望施設について

第1希望は、これまでの運営実績を通じて利用者や地域との信頼関係を築いてきた「ゆうゆう和泉館」とします。第2希望を「ゆうゆう永福館」、第3希望を「ゆうゆう和田館」とし、いずれの施設においても、当センターが培ってきたゆうゆう館運営の経験、利用者対応のノウハウ、地域との連携力を生かします。各館の特性や地域性を踏まえ、安全で親しまれ、地域に根差した施設運営を行い、利用者の満足度向上と地域コミュニティの活性化に努めます。

（５）提案によって期待される効果

本提案により、高齢者の外出および交流の機会を増やし、いきがいづくり、フレイル・介護予防、地域共生社会の推進を図ります。また、既存の地域資源を活用しつつ町会、ケア24等との連携を通じて地域ニーズを的確に把握し、地域人材の発掘・育成を進めることで、地域に根差した持続可能な施設運営を実現します。

※イメージ図

